

## PTCA 活動報告：よこはまチャイルドライン講演会を開催いたしました。

1/26（土）、NPO 法人 よこはまチャイルドライン代表理事である徳丸のり子さんをお招きし、講演会「コドモの今、どうするオトナたち？～おせっかいおばちゃん&おじちゃんになろう～」を開催いたしました。今の子ども達にはどのようなことが必要なのか、私たち大人ができることは何かを考えさせられる大変貴重な機会となりました。また、お忙しい中、お越しいただきました保護者の皆様には、改めて御礼申し上げます。



会場となった視聴覚室



徳丸のり子さん。  
チャイルドラインに寄せられる声  
やご自身の子育て経験に基づく、  
説得力のあるお話

<講演会の中で、特に印象的であったことについて>

文部科学省学力調査による、小学 6 年生の「悩みの相談相手」のなかで、“誰にも相談しない”という回答が 20%を超えていました。5 人に 1 人の子どもがそのような状況にあることにとっても驚きました。なぜそのような状態を招いてしまっているのか……、講演会のなかでは、その現状と、大人たちが今、何をすべきなのかが浮かびあがってきました。

・子どもの声を丁寧に「聴く（心で）」ことの大切さ

親である私たちは、自身が聞きたいことを子どもに尋ねることはありますが、大切なことは子どもの気持ちを受け止めることであり、日頃から子どもが話しかけやすい時間を少しでも用意しておく必要があるということ（忙しそうにしている大人には子どもは話しかけない）。

・親でもない、先生でもない（＝両者はタテの関係）、他人である大人（＝ナナメの関係）の必要性

子どもにとって、友達はヨコの関係です。また、タテの関係である親や先生は子どもを想うあまりに期待や叱責することが多々あります。しかし、それだけでは子どもは息詰まってしまう為、意識して子どもの周りに、ナナメの関係である大人（地域の人、親戚、チャイルドラインなど）を置くことが必要となってきます。より多くの大人と接することで、子ども達はいろいろな生き方や考え方、価値観に触れることができ、こうした「あたたかい他人」の存在が子ども達の気持ちをラクにするのではないのでしょうか。

・親の人間関係の豊かさが子どもに直結する

仕事、自分の友人、子どもの学校や友人との関係、それだけでも大変であるのに、さらにPTAやこども会、地域の行事などにはとても手がまわらない……。大変そうであるし、面倒くさい一面も確かにあります。しかし、一番身近にいる大人がほんの少しの勇気をもって踏み込むことで、子どもを取り巻く環境が変わっていきます。ナナメの関係である大人を増やす為にも、親である私たちがまずは小さな一歩を学校や地域などにも踏み出す姿を子ども達にみせることができたらいと思います。



保護者の皆様をはじめ、校長先生や副校長先生、吉川先生も熱心に聞き入る姿

今回の講演会を聴き、私たち大人ができることは何か？ について深く考えさせられました。上記のような事柄は、ひとりの親がおこなって成り立つものではなく、やはりより多くの保護者・先生・地域の皆さんを巻き込んで、はじめて創り上げられていくものだと感じます。この講演会をきっかけに、少しずつこの想いが皆様に広がることを願っております。

※毎年4月に、学校から「よこはまチャイルドライン」のカードが子ども達に配られます。目にした際には、ぜひお子様にもお声がけいただければと思います。